

時代	西暦	福井県のできごと	
旧石器	数万年前から1万年前	<p>にししもわかい 西下向遺跡(三国町)などで狩猟・採集生活が始まる</p> <p>なるか 鳴鹿遺跡(永平寺町)から槍先形の打製石器が出土</p> <p>とりはま 鳥浜遺跡(三方町), 北堀遺跡(福井市)など河川のほとりに集落が形成される</p>	
縄文	紀元前300	<p>こめがわき 三国町米ヶ脇, いのわかい 春江町井向, きばえ しんまち 鯖江市新町, むかきかみなか 三方町向笠上中町 向山で銅鐸が出土</p>	
弥生	紀元300ころ	<p>にほんまつやま 二本松山(松岡町), はらめいせき 原目遺跡(福井市), ろくろせ 六呂瀬山(丸岡)など, 約4000基の古墳が福井県内につくられる</p> <p>若狭や越前に大陸から多くの渡来人がやってくる</p>	
古墳	6世紀	<p>こし 越出身の男大迹王が継体天皇として即位する</p>	
飛鳥	7世紀	<p>あらかち 敦賀に愛発の関が置かれる</p> <p>越の国が越前・越中・越後の三国に分かれる</p>	
	718	越前国から能登国が分かれる。このころ, 中央より越前への逃亡者が増加する	
	741	若狭は遠敷に, 越前は武生に国分寺が置かれる	
奈良	749	聖武天皇が足羽郡などの一部を東大寺に寄進する	
	759	日本最古の地図である東大寺領道守庄(福井市)の開田図が作られる	
平安	806	明通寺が創建されたと伝えられる	
	823	越前国から加賀国が分かれる	
	894	<p>すがわらのみちざね 遣唐使に選ばれた菅原道真が航路の無事安着を祈願するために気比神宮に参拝する</p> <p>このころ, 敦賀の豪族, ふじわらのとしひと 藤原利仁が有力となる (今昔物語)</p>	
	919	渤海使らを若狭より敦賀の松原客館に移す	
	927	「延喜式」で越前の式内社126社, 若狭42社	
	996	むらさきしきぶ 紫式部が父藤原為時とともに越前国府(武生)に来る	
	1104	気比神宮の神人が国司の非法を訴える	
鎌倉	1183	きそよしなか 木曾義仲が藤島七郷を平泉寺に寄進する	
	1207	しんらん 親鸞が越後に流される途中, 鯖江や福井に立ち寄る	
	1240	若狭の太良庄が東寺領になる	
	1244	<p>どうげん しひだに そうとうしゅう 道元が志比谷に曹洞宗の道場(永平寺)を創建する</p> <p>このころより, 若狭国が北条氏の直接支配地(得宗領)となる</p>	
	1271	元の襲来に対して, 北陸・東山の武士は敦賀の防備にあたる	
	1279	国分寺や気比神宮で元の襲来に対して異国降伏の祈願を行う	
新政	建武の	1336	<p>にったよしさが つねよししんのう 新田義貞が恒良親王らと越前に逃れ, 敦賀金ヶ崎城にたてこもる</p> <p>あさくらひろかげ しんばたかつね 朝倉広景が斯波高経に従って越前に入国し, やがて黒丸城(福井市)主となる</p>
		1338	<p>にったよしさが どうみょうじなわて 新田義貞が灯明寺瞭で敗死する</p>
南北朝	1366	<p>いっしきのりみつ 一色範光が若狭の守護となる</p>	

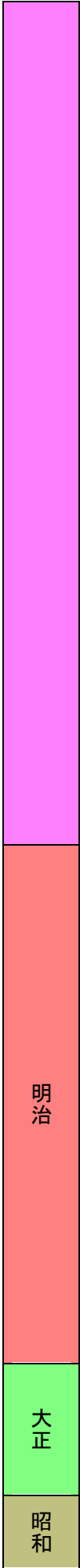
室町

戦国

安土桃山

江戸

- 1440 武田氏が一色氏を滅亡させ若狭の守護となる
- 1452 太良庄^{たらのしょう}で徳政一揆が起こる
- 1471 朝倉孝景が越前守護となり、黒丸城^{いちじょうだに}より一乗谷へ移る
本願寺^{ねんによ}の蓮如が、孝景の援助を得て吉崎に道場を建立する
- 1506 30 万余の加賀一向一揆が越前に侵入し、朝倉教景と戦う
- 1563 朝倉義景が若狭へ侵入する
- 1567 足利義昭^{あしかがよしあき}(後の 15 代将軍)が義景を頼って一乗谷に来る
- 1570 織田信長が越前に侵入、手筒城(敦賀)を攻撃する
姉川の戦いで朝倉・浅井連合軍が織田・徳川連合軍に敗れる
- 1573 朝倉義景が信長に攻められ、一乗谷を焼き大野で自殺する
- 1575 織田信長によって越前の一向け一揆の宗徒が多数捕えられ惨殺される。柴田勝家が北ノ庄城主(49 万石)
- 1576 柴田勝豊が豊原城を丸岡に移す
- 1578 柴田勝家が九頭竜川に舟橋、足羽川^{つくとくもぼし}に九十九橋を架ける
- 1581 ルイス=フロイスが北ノ庄に来てキリスト教を布教する
- 1583 賤ヶ岳の戦いで柴田勝家が豊臣秀吉に敗れる
柴田勝家・お市の方が自害し北ノ庄が落城する
丹羽長秀^{にわながひで}、ついで堀秀政^{ほりひでまさ}が北ノ庄城主(30 万石)となる
- 1587 浅野長政が小浜城主となる。翌々年、大谷吉継が敦賀城主となる
- 1600 結城(松平)秀康が北ノ庄城主(68 万石)となる
- 1606 北ノ庄城完成、城下の町数 126、戸数 5190、人口 2 万 5300 を数える
- 1615 大阪夏の陣で、松平忠直の軍が奮戦する
- 1623 松平忠直が豊後(大分県)に流罪となる
- 1624 北ノ庄を福居と改める(後に福井)
- 1634 酒井忠勝(後に大老となる)が小浜藩主(11.3 万石)となる
このころ小浜の城下の町数 46、戸数 1728、人口 1 万 350 を数える
- 1638 福井の浮世絵画家岩佐又兵衛が江戸へ出る
- 1652 若狭の松木庄左衛門(長操)が重税に反対して処刑される
- 1661 福井藩が全国最初の藩札を出す
- 1664 行方久兵衛が三方五湖の浦見坂に切通しをつくる
- 1669 寛文の大火で福井城の天守閣が焼失する。3 年後に再建されるが、天守閣は建たず
- 1682 土井利房が大野藩主(4 万石)となる
- 1686 幕府は福井藩主松平綱昌の心疾を理由に封を取り上げ、松平吉品に 25 万石^{よしのり}を与える。石高が半減し多くの浪人がでる
- 1689 松尾芭蕉が「奥の細道」の行脚で、越前に来る
- 1691 小笠原貞信が勝山藩主(2.2 万石)となる
- 1695 有馬清純が丸岡藩主(5 万石)となる
- 1697 松平頼方(のちの徳川吉宗)が、陣屋を葛野(丹生郡)に置く
- 1699 福井藩が今立の五箇村に紙会所を置く
- 1708 松平吉品が失業者救済のため御泉水邸(福井市、現在の養浩館)を建てる
- 1720 間部詮言が、鯖江藩主(5 万石)となる
- 1721 松岡藩を廃し、福井藩に合併し、福井藩 30 万石となる
- 1742 松平宗矩が藩内に儉約令を出し武士の生活を正す



- 1748 福井藩の再三にわたる御用金賦課に対し、強訴・打ちこわしが発生する
- 1761 財政難のため、3か年間福井藩士の禄高を半減する
- 1768 福井城下や木田村など265村で、餓死米願などで打ちこわしが始まる
- 1769 福井藩医半井彦らが死体の解剖をする
- 1774 小浜藩校の順造館が建つ。小浜藩江戸屋敷の医師、杉田玄白らが「解体新書」を著す
- 1783 天明の大ききんで、福井藩領内でも12.2万石の損害を受ける
- 1803 伊能忠敬が越前沿岸を測量する
- 1818 福井藩が2万石加封され、32万石となる
- 1829 福井藩が財政難のため、さらに6年間、藩士の禄高を半減する。儉約令を出し国産を奨励する
- 1832 大野藩が面谷鉱山を経営する
- 1836 天保の大飢饉で福井領内23.8万石の損害。福井藩の借財が90万両に達し、幕府に増高を嘆願する
- 1838 松平慶永(春嶽)が16代福井藩主となる
- 1851 横井小楠が福井藩の藩政改革のため、熊本より招かれる
- 福井藩が除痘館を設立し、笠原白翁を重用して、種痘を普及させる
- 1856 大野藩が大野丸により、北辺貿易と蝦夷地の開拓を行う
- 1858 橋本左内が将軍の継嗣問題で、松平慶永の命を受けて活躍する
- 慶永が大老井伊直弼によって隠居を命ぜられる
- 1859 安政の大獄のため、橋本左内・梅田雲浜が刑死する
- 1863 坂本竜馬が、勝海舟の密命を受け、福井へ来る
- 1864 松平慶永が京都守護職となる。幕府の長州攻めで、越前兵が奮闘する。水戸の武田耕雲斎らの一党(天狗党)が越前に侵入し、敦賀で降伏・処刑される
- 1867 王政復古により、松平慶永は議定、由利公正は参与となる
- 1868 由利公正が五箇条の御誓文の作成に加わる
- 1869 版籍奉還で福井藩主松平茂昭、小浜藩主酒井忠義がそれぞれ知藩事となる
- 米人教師グリフィスが明新館(旧明道館)で理化学を教授する
- 1878 杉田定一らが地租改正運動に着手する
- 1881 越前、若狭11郡を石川、滋賀両県より分離して福井県が設置される。初代福井県知事に石黒務が任命される
- 1882 南越自由党が結成される
- 1884 敦賀一長浜間に鉄道が開通する
- 1888 桐生の製織技術に学び、羽二重生産を始める
- 北陸鉄道会社設立(現在のJR北陸本線建設の始まり)
- 1889 市町村制が実施される。県下1市9町168村とする
- 1899 京都電灯株式会社が足羽川の宿布に発電所を完成させ、福井市内に初めて電灯がつく
- 1900 山川登美子が、与謝野鉄幹や与謝野晶子と交わり、「明星」誌に作品を発表する
- 1906 敦賀ーウラジオストク間に直通航路が開かれる
- 杉田定一が衆議院議長となる
- 1916 魯迅を教えた藤野巖九郎が芦原に帰り、開業医となる
- 1918 米騒動が起こり、鯖江第36連隊が出動して、鎮圧にあたる
- この頃 米1俵=13.1円(1913年5.3円)
- 1920 初めて国勢調査が行われる(県人口59万5155人、世帯数12万4910世帯)
- 1932 福井人絹取引所が、世界で初めて設立される
- 1936 2.26事件で、岡田首相は危うく難をまぬがれる

明治

大正

昭和

平成	1942	衣料が切符制となる(米1俵=18.92円(公定価格))
	1944	詩人の三好達治が東京から三国町に疎開 ^{そがい} してくる 阪神地方から多くの学童 ^{がくどう} が疎開 ^{そがい} してくる
	1945	敦賀市と福井市が大空襲 ^{おほくうしゅう} をうけて焦土と化し、多くの死傷者が出る。敗戦。インフレが激化する
	1948	福井大地震 ^{ふくいおほいしん} が起こる(6月28日) 全壊焼失家屋3万7644戸、死者・行方不明者3858人
	1961	北陸トンネルが貫通 ^{かんつう} する
	1963	38豪雪(福井市で積雪213cm)
	1968	第23回国民体育大会を本県で開催する
	1970	敦賀原子力発電所 ^{あそんげん} が営業運転を開始する
	1972	福井臨海工業地帯 ^{りんかいこうぎょうちたい} を起工する
	1980	北陸自動車道 ^{ほくりくじどうしやうだう} が米原で名神高速道路 ^{なごんこうすうだう} と結ばれる
	1981	56豪雪。置県100年を迎える。県人口は前年の国勢調査で79万4363人、世帯数21万2537世帯
	1988	新しく福井県の長期構想 ^{ちんきこうさう} が作成され、「生活満足度日本一・人口100万人県福井」が基本目標となる
	1992	福井県立大学 ^{ふくいけんりつだいがく} が開校する 全国中学校選抜体育大会 ^{ぜんこくちゅうがくせんぱつたいいくたいかい} が福井県内でも開催され、県勢 ^{けんせい} が新装の県立武道館 ^{けんりつぶだうかんと} やまるおかスポーツランド ^{まるおかスポーツらんど} で好成績をおさめる
	1995	サンドーム福井で'95世界体操鯖江大会 ^{せかいたいそうさばえたいかい} が開催される
	1996	敦賀半島にある原子力発電所もんじゅ ^{もんじゅ} でナトリウム事故 ^{なとりうむじこ} が発生して大問題となる
	1997	ロシア重油運搬船 ^{しゅうあぶらうんぱんせん} が日本海で沈没 ^{しんぼつ} し、越前海岸 ^{えぜんかいがん} や若狭湾 ^{わかさわん} に大量の重油 ^{しゅうあぶら} が漂着 ^{ひょうせき} して大問題となる